

主な医薬品とその作用

【問61】

ブロメラインに関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ^{たん}蛋白質分解酵素で、体内に産生される炎症物質（起炎性ポリペプチド）を分解する作用を示す。
- b フィブリノゲンやフィブリンを分解する作用があり、血液凝固異常（出血傾向）の症状のある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある。
- c 鼻粘膜や喉^{のど}の炎症を生じた組織^{のど}の修復に寄与するほか、痰^{たん}の粘りけを弱め、また、気道粘膜の線毛運動を促進させて痰^{たん}の排出を容易にする作用を示す。
- d 体内での炎症物質の産生を抑えることで炎症の発生を抑え、腫れ^はを和らげると考えられている。凝固した血液を分解されにくくする働きもある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問62】

グリチルリチン酸二カリウムに関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

グリチルリチン酸二カリウムの作用本体であるグリチルリチン酸は、化学構造が (a) 成分と類似しているところにより、抗炎症作用を示すと考えられている。グリチルリチン酸を大量に摂取すると、(b) を生じるおそれがある。また、1日最大服用量がグリチルリチン酸として (c) 以上となる製品については、高齢者、むくみのある人、心臓病、腎臓病又は高血圧の診断を受けた人であるか否かによらず、長期連用を避けることとされている。

	a	b	c
1	ステロイド性抗炎症	ライ症候群	40mg
2	非ステロイド性抗炎症	偽アルドステロン症	20mg
3	ステロイド性抗炎症	偽アルドステロン症	40mg
4	非ステロイド性抗炎症	ライ症候群	20mg
5	ステロイド性抗炎症	偽アルドステロン症	20mg

【問63】

解熱鎮痛薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリン（アスピリンアルミニウムを含む。）は、血液を凝固しにくくさせる作用がある。
- b アセトアミノフェンは、主として中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらすと考えられており、抗炎症作用は期待できない。
- c イブプロフェンは、アスピリンに比べて胃腸への影響が少なく、抗炎症作用も示すことから、頭痛、咽頭痛、月経痛（生理痛）、腰痛等に使用されることが多い。
- d イソプロピルアンチピリンは、解熱や鎮痛の作用が比較的強いが、抗炎症作用は弱いとされ、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される、非ピリン系の解熱鎮痛成分である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問64】

漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 芍薬甘草湯は、下肢の痙攣性疼痛（いわゆる「足がつる」症状やこむらがり）、急な腹痛や胃痙攣の痛み等のような、急激に起こる筋肉の痙攣を伴う疼痛に適すとされる。
- b 呉茱萸湯は、関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい等、不向きとされる。
- c 疎経活血湯は、みぞおちが膨満して手足が冷えやすい人における、頭痛及び頭痛に伴う吐き気、しゃっくりに適すとされる。
- d 釣藤散は、中年以降の人又は血圧が高めの人における慢性の頭痛に適すとされるが、胃腸虚弱で冷え症の人では、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問65】

催眠鎮静薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ブロムワレリル尿素は、脳の興奮を抑え、痛みを感じる感覚を鈍くする作用を示すことから、解熱鎮痛薬に配合されることがある。
- b 生薬成分のみからなる鎮静薬であれば、複数の鎮静薬の併用や、長期連用をしてもかまわない。
- c ブロムワレリル尿素を含む催眠鎮静薬は、妊婦の睡眠障害に適している。
- d アリルイソプロピルアセチル尿素は、反復して摂取すると依存を生じるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

【問66】

カフェインに関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

カフェインは、脳に軽い(a)状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感^{けん}を一時的に抑える効果が期待される。なお、胃液の分泌を(b)させる作用や心筋を(c)させる作用があるため、胃潰瘍^{かいよく}の診断を受けた人や心臓病の診断を受けた人は、服用を避ける必要がある。その他の作用として、腎臓での水分の再吸収を(d)するとともに、膀胱括約筋^{ぼうこう}を弛緩させる働きがあり、尿量の(e)をもたらす。

	a	b	c	d	e
1	興奮	抑制	抑制	促進	減少
2	抑制	亢進 ^{こうしん}	抑制	促進	減少
3	抑制	抑制	興奮	抑制	増加
4	興奮	亢進 ^{こうしん}	興奮	抑制	増加
5	興奮	亢進 ^{こうしん}	抑制	促進	増加

【問67】

鎮暈薬(乗物酔い防止薬)とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 臭化水素酸スコポラミンは、中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させるとともに、末梢では消化管の緊張を低下させる抗コリン成分である。
- b プロメタジンを含む乗物酔い防止薬は、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。
- c ジメンヒドリナートは、テオクル酸ジフェンヒドラミンの一般名で、専ら乗物酔い防止薬に配合される局所麻酔成分である。
- d 抗めまい成分の塩酸ジフェニドールは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経(前庭神経)の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- e 塩酸メクリジンは、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが遅く持続時間が長く、専ら乗物酔い防止薬に配合されている。

	a	b	c	d	e
1	誤	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正	正
3	誤	正	正	正	誤
4	正	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	誤	正

【問68】

小児鎮静薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児鎮静薬の代表的な配合生薬のゴオウ、ジャコウは、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。
- b 小児鎮静薬を一定期間又は一定回数服用させても症状の改善が見られない場合は、漫然と使用を継続せず医療機関を受診させることが望ましい。
- c 小児の疳(かん)を適応症とする生薬製剤に配合されるカンゾウは、血液の循環を促す作用を期待して配合される。
- d 一般的に、小児鎮静薬は生薬成分が中心に配合されている。これは作用が穏やかで小さな子供に使用しても副作用が無いため、このことは購入者に積極的に伝えるべきである。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

【問69】

次の呼吸器疾患に用いられる医薬品成分とその目的とする作用のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

医薬品成分	目的とする作用
a 臭化水素酸デキストロメトルファン	—— 抗炎症
b 塩酸メトキシフェナミン	————— 気管支拡張
c トラネキサム酸	————— 殺菌消毒
d 塩化リゾチーム	————— 抗炎症

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問70】

鎮咳去痰薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸ノスカピンは、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える非麻薬性鎮咳成分である。
- b 塩酸トリメトキノールは、交感神経系を刺激し、気管支を拡張させることにより咳や喘息の症状を鎮める。
- c グアイフェネシンは、痰の粘性蛋白質に作用してその粘りけを減少させ痰の切れを良くする。
- d 塩酸エチルシステインは、気道粘膜からの分泌を促進することにより痰の切れを良くする。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問71】

鎮咳去痰薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a シャゼンソウは、オオバコ科のオオバコの花期の全草を用いた生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- b ナンテンジツは、バラ科のヤマザクラ又はその同属植物の樹皮を用いた生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- c セネガは、ヒメハギ科のセネガ又はその同属植物の根を用いた生薬で、鎮咳作用を期待して用いられる。
- d カンゾウは、マメ科のカンゾウ又はその同属植物の根及び根茎を用いた生薬で、炎症作用等を期待して用いられる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問72】

次の医薬品成分のうち、口腔咽喉薬に殺菌消毒成分として配合される正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩化セチルピリジニウム
- b ハッカ油
- c アズレンスルホン酸ナトリウム
- d 塩酸クロルヘキシジン

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問73】

胃腸薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 制酸成分を主体とする胃腸薬は、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられる。
- b ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。
- c 塩酸ピレンゼピンは、消化管の運動にはほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示すとされるが、消化管以外では排尿困難、動悸、目のかすみの副作用を生じることがある。
- d オウバクが配合された健胃薬は苦味が強いので、オブラートに包んで服用するとよい。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |

【問74】

次の胃腸薬の配合成分とその目的とする作用の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

- | | 配合成分 | 目的とする作用 |
|---|----------------|----------|
| 1 | 炭酸水素ナトリウム | 抗炎症 |
| 2 | テプレノン | 消泡 |
| 3 | ジアスターゼ | 制酸 |
| 4 | スクラルファート | 胃粘膜保護・修復 |
| 5 | アズレンスルホン酸ナトリウム | 胃液分泌抑制 |

【問75】

胃腸薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩酸ロペラミドは、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられることを目的としており、食べ過ぎ・飲み過ぎによる下痢や寝冷えによる下痢については適用対象でない。
- b 収斂成分^{れん}を主体とする止瀉薬^{しゃ}については、細菌性^{しん}の下痢や食中毒のときに使用して腸の運動を鎮めると、かえって状態を悪化させるおそれがある。
- c タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、牛乳に含まれるカゼインから精製された成分であるため、牛乳にアレルギーのある人では使用を避ける必要がある。
- d タンニン酸ベルベリンは、生薬のオウバク^{しやく}やオウレンの中に存在する物質のひとつであり、抗菌作用のほか、瀉下作用も併せ持つとされる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |

【問76】

タクシー運転手の34歳の男性が、下痢の症状を訴え、一般用医薬品で症状の緩和を図ろうと、運転業務中に来店した。登録販売者が症状を詳しく尋ねたところ、急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・吐き気等の症状を伴う下痢ではなく、発熱、血便、粘液便も伴っていなかった。次の医薬品のうち、登録販売者が勧めることが好ましくないものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品A
配合成分：塩化ベルベリン、タンニン酸アルブミン、アクリノール
- b 医薬品B
配合成分：ビサコジル、ジオクチルソジウムスルホサキシネート（D S S）
- c 医薬品C
配合成分：塩酸ロペラミド
- d 医薬品D
配合成分：オウバクエキス、沈降炭酸カルシウム

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問77】

胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 臭化メチルベナクチジウムや塩酸ジサイクロミンは、胃腸鎮痛鎮痙薬に配合される抗コリン成分である。
- b 塩酸パंपベリンは、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用を示すとされ、抗コリン成分と同様に胃液分泌を抑える作用がある。
- c ロートエキスは、吸収された成分が母乳中に移行することがないので、授乳期でも安心して使用できる。
- d アミノ安息香酸エチルについては、乳幼児ではメトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満への使用は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問78】

駆虫薬に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

駆虫薬は、腸管内の寄生虫に対して、これを駆除するために用いられる医薬品で、一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と (a) である。

駆虫薬は、腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫 (回虫の場合) には駆虫作用が及ばないため、それらが成虫となった頃にあらためて使用しないと完全に駆除できない。再度駆虫を必要とする場合には、(b) 以上間隔を置いてから使用することとされている。

駆虫成分の一つである (c) は、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

	a	b	c
1	ぎょう 蟯 虫	1 週間	パモ酸ピルビニウム
2	条 虫	1 週間	サントニン
3	条 虫	1 ヶ月	パモ酸ピルビニウム
4	吸 虫	1 ヶ月	カイニン酸
5	ぎょう 蟯 虫	1 ヶ月	サントニン

【問79】

一般用医薬品には強心作用を有する生薬があるが、それぞれの特徴を示した次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a センソは、有効域が比較的広い成分であり、また、1日用量中センソ 3 mg を含有する医薬品は劇薬に指定されている。
- b ジャコウは、シカ科の動物の雌のジャコウ腺分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢の抑制作用があるとされる。
- c ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬であり、強心作用のほか、興奮を静める等の作用があるとされる。
- d ロクジョウは、強心作用を目的とした医薬品のほか、滋養強壮保健薬にも配合される場合がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問80】

コレステロールに関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 細胞の構成成分であり、副腎皮質ホルモンなどの産生に重要な物質である。
- b 食事から摂取された蛋白質から主に産生される。
- c 肝臓から末梢組織へ血液中の高密度リポ蛋白質 (HDL) により運ばれる。
- d 水に溶けにくく、血液中では血漿蛋白質と結合したりリポ蛋白質となって存在する。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問81】

貧血用薬とその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB₁₂の構成成分である。
- b 鉄分は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
- c 硫酸銅は、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で配合されることがある。
- d 鉄製剤は、消化器系への副作用がないので、鉄分の吸収が高い食前に服用することが望ましい。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問82】

しちもつこうかとう
七物降下湯に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 身体虚弱の傾向のある人における、高血圧に伴う諸症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重）に適する。
- b 胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感などの副作用が現れやすいので不向きとされている。
- c 1ヶ月程度の比較的長期間の服用が行われる場合がある。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 |

【問83】

痔に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 痔核は、一般に「いぼ痔」と呼ばれる。
- 2 裂肛は、一般に「切れ痔」（又は「裂け痔」）と呼ばれる。
- 3 痔疾用薬は、肛門部又は直腸内に適用する外用薬しかない。
- 4 痔瘻は、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって炎症・化膿を生じた状態である。
- 5 痔は、肛門付近の血管が鬱血し、肛門に負担がかかることによって生じる肛門の病気の総称である。

【問84】

尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる生薬は、次のどれか。

- 1 カゴソウ
- 2 サンキライ
- 3 ソウハクヒ
- 4 モクツウ
- 5 ウワウルシ

【問85】

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤の桂枝茯苓丸けいしぶくりょうがんに関する記述として、正しいものは次のどれか。

- 1 手足がほてり、唇が乾く人における、月経不順、月経困難、こしけ(おりもの)、更年期障害、不眠、神経症、湿疹しん、足腰の冷え、しもやけに適すとされるが、胃腸の弱い人では、不向きとされる。
- 2 体の虚弱な人(体力の衰えている人、体の弱い人)では不向きとされるが、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷えなどを訴える人における月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身(打撲症)、しもやけ、しみに適すとされる。
- 3 比較的体力が乏しく、冷え症で貧血きの傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸等きを訴える人における月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後又は流産による障害(貧血、疲労倦怠けん、めまい、むくみ)、めまい、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみに適すとされるが、胃腸の弱い人では、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- 4 皮膚が乾燥し、色つやの悪い体質で胃腸障害のない人における、産後又は流産後の疲労回復、月経不順、冷え症、しもやけ、しみ、血の道症に適すとされるが、体の虚弱な人(体力の衰えている人、体の弱い人)、胃腸の弱い人、下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

【問86】

アレルギー用内服薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分は、抗コリン作用も示すため、排尿困難や口渇、便秘等の副作用が現れることがある。
- b 抗ヒスタミン成分が配合された一般用医薬品の内服薬を服用した後は、乗物又は機械類の運転操作を避けることとされている。
- c ジメンヒドリナート等のジフェンヒドラミンを含む成分については、吸収されたジフェンヒドラミンが乳汁に移行しないので、授乳期でも安心して使用できる。
- d メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック(アナフィラキシー)、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【問87】

アレルギー用薬に配合される塩酸プソイドエフェドリンに関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的としている。
- b 依存性はないが、長期間に渡っての使用は避ける必要がある。
- c ヨウ化イソプロパミドと同様の抗コリン成分である。
- d 中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問88】

鼻炎用点鼻薬に配合される塩酸ナファゾリンに関する記述として、最も適切なものは次のどれか。

- 1 殺菌消毒成分であり、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として配合される。
- 2 局所麻酔成分であり、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑えることを目的として配合される。
- 3 アドレナリン作動成分であり、交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として配合される。
- 4 肥満細胞からのヒスタミンの遊離を抑える成分であり、花粉、ハウスダスト等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として配合される。
- 5 抗炎症成分であり、鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として配合される。

【問89】

点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。
- b 1滴の薬液の量は約30 μ Lであるのに対して、結膜囊^{のう}の容積は50 μ L程度とされているため、1滴の点眼では効果がない。
- c 一回使い切りタイプとして防腐剤を含まない製品では、ソフトコンタクトレンズ装着時にも使用できるものがある。
- d 点眼薬の容器に記載された使用期限内であっても、容器が開封されてから長期間経過した製品は、使用を避けることが望ましい。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |

【問90】

次の点眼薬の配合成分とその目的とする作用のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	配合成分		目的とする作用
a	イプシロン-アミノカプロン酸	———	抗炎症
b	コンドロイチン硫酸ナトリウム	———	抗菌
c	塩酸テトラヒドロゾリン	—————	組織修復
d	硫酸亜鉛	—————	収斂 ^{れん}

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問91】

外皮用薬に配合されるステロイド性抗炎症成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 末梢組織（患部局所）におけるプロスタグランジンなどの炎症を引き起こす物質の産生を抑える作用がある。
- b 皮下の知覚神経に麻痺を起こさせる作用がある。
- c 末梢組織の免疫機能を低下させる作用がある。
- d 患部の蛋白質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する作用がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

【問92】

次の歯痛薬(外用)・^{そうのうるう}歯槽膿漏薬の配合成分とその目的とする作用のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

配合成分	目的とする作用
a 塩化セチルピリジニウム	組織修復
b アミノ安息香酸エチル	局所麻酔
c サンシシ	抗炎症
d オイゲノール	止血

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問93】

歯や口中に用いる薬とその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 歯の齶蝕のほか、第三大臼歯（親知らず）の伸長による痛みも、歯痛薬（外用）による効果が期待できる。
- b グリチルレチン酸は、口腔粘膜の炎症を和らげる目的で配合される。
- c 口内炎の再発を繰り返す場合には、ベーチェット病などの可能性も考えられるので、口内炎用薬による対処のみに限らず受診勧奨を行うのが望ましい。
- d アズレンスルホン酸ナトリウムは、歯の齶蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑える殺菌消毒成分として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問94】

禁煙補助剤(ニコチンを有効成分とする^{そしやく}咀嚼剤)に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 大量に使用しても禁煙達成が早まるものでなく、1度に2個以上の使用は避ける必要がある。
- b 菓子のガムのようによく噛んで十分な唾液を分泌させ、唾液とともに放出されたニコチンを飲み込む。
- c インスリン製剤を使用している人は、有効成分のニコチンがインスリンの血糖降下作用に拮抗して、効果を妨げるおそれがある。
- d 有効成分のニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示すが、アドレナリン作動成分が配合された医薬品の作用を増強させることはない。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

【問95】

ビタミン主薬製剤に関する記述として、正しいものは次のどれか。

- 1 ビタミンA主薬製剤は、酢酸レチノール等が主薬として配合され、眼精疲労、脚気の症状の緩和等に用いられる。
- 2 ビタミンD主薬製剤は、エルゴカルシフェロール又はコレカルシフェロールが主薬として配合され、骨歯の発育不良、くる病の予防等に用いられる。
- 3 ビタミンE主薬製剤は、シアノコバラミン等が主薬として配合され、末梢血管障害による肩・首すじのこり、手足のしびれ・冷え、しもやけの症状の緩和等に用いられる。
- 4 ビタミンB₆主薬製剤は、塩酸ピリドキシシン又はリン酸ピリドキサールが主薬として配合され、神経痛、関節痛の緩和等に用いられる。
- 5 ビタミンC主薬製剤は、システイン等が主薬として配合され、メラニンの産生を抑える働きがあり、色素沈着の症状の緩和、歯ぐきからの出血・鼻出血の予防等に用いられる。

【問96】

漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 葛根湯かつこんとうは、かぜのひき始めから数日たって症状が少し長引いている状態で、疲労感があり、食欲不振、吐き気がする場合に適すとされ、また、胃腸虚弱、胃炎のような消化器症状にも用いられるが、体の虚弱な人には不向きとされる。
- b 八味地黄丸はちみじおうがんは、疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渴がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目かゆ、痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適すとされるが、胃腸の弱い人、下痢しやすい人では、食欲不振、胃部不快感、腹痛、下痢の副作用が現れるおそれがあるため使用を避ける必要がある。
- c 防己黄耆湯ぼういおうぎとうは、色白で疲れやすく、汗をかきやすい傾向のある人における、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）、関節痛、むくみの症状に適すとされる。まれに重篤な副作用として肝機能障害、間質性肺炎が起こることが知られている。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |

【問97】

次の記述にあてはまる生薬はどれか。

キンポウゲ科のハナトリカブトの塊根であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。血液循環が高まることによる利尿作用を示すほか、鎮痛作用を示すが、アスピリン等と異なり、プロスタグランジンを抑えないことから、胃腸障害等の副作用は示さない。

- 1 ショウマ
- 2 レンギョウ
- 3 ブシ
- 4 サンザシ
- 5 ボウフウ

【問98】

次の記述にあてはまる消毒薬はどれか。

微生物の蛋白質^{たん}を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。なお、脱脂による肌荒れを起こしやすく、皮膚へ繰り返して使用する場合には適さない。

- 1 エタノール
- 2 クレゾール石鹼液^{けん}
- 3 グルコン酸クロルヘキシジン
- 4 次亜塩素酸ナトリウム
- 5 ジクロルイソシアヌル酸^{けん}ナトリウム

【問99】

次の殺虫剤・忌避剤に用いられる成分の種類と名称のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	種類	名称
a	有機リン系殺虫成分	ペルメトリン
b	ピレスロイド系殺虫成分	フェノトリン
c	カーバメイト系殺虫成分	ジクロロボス
d	忌避成分	ディート

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問100】

尿糖、尿^{たん}蛋白検査等に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- b 原則として検体は、尿糖の場合は食後（1～2時間）の尿、尿^{たん}蛋白の場合は早朝尿（起床直後の尿）とする。
- c 尿中の^{たん}蛋白値に異常を生じる要因は、腎臓機能障害によるものとして腎炎やネフローゼ症候群、尿路に異常が生じたことによるものとして尿路感染症、尿路結石、膀胱炎などがある。
- d 尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多く、腎性糖尿や妊娠糖尿も高血糖を伴う。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

医薬品の適正使用と安全対策

【問101】

一般用医薬品の添付文書の必須記載とされている事項に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 病気の予防・症状の改善につながる事項
- b 使用上の注意
- c 製品の特徴
- d 保管及び取扱い上の注意

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問102】

以下の記述は、一般用医薬品の使用上の注意に「してはいけないこと」として記載されている事項である。このうち、アスピリンを含有する医薬品に記載されるべき事項として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 15歳未満の小児への使用
- b 牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人への使用
- c 透析療法を受けている人への使用
- d 出産予定日12週以内の妊婦への使用

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問103】

一般用医薬品の添付文書に記載されている標識的マークのうち、以下のマークが付された項目として正しいものはどれか。



- 1 相談すること
- 2 保管及び取扱い上の注意
- 3 使用上の注意
- 4 してはいけないこと
- 5 使用しないこと

【問104】

緊急安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a A4サイズのピンク色の用紙に印刷された印刷物で、ドクターレターとも呼ばれる。
- b 医薬品又は医薬部外品についての重要かつ緊急な情報伝達が必要な場合に、情報伝達するものである。
- c 一般用医薬品にも関係する緊急安全性情報が発出されたこともある。
- d 厚生労働省が医薬関係者に4週間以内に直接配布し情報伝達するものである。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

【問105】

一般用医薬品の使用上の注意に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用検査薬では、その検査結果のみで確定診断はできないので、判定が陽性であれば速やかに医師の診断を受ける旨が記載されている。
- b 併用すると作用の増強、副作用等のリスクの増大が予測されるものについて注意を喚起し、使用を避ける等適切な対応が図られるよう記載されている。
- c 小児に使用される医薬品においては、その医薬品の配合成分に基づく一般的な注意事項であっても、服用時は飲酒しない旨の記載は、省略される。
- d 一般用医薬品は、医療用医薬品より作用が穏やかになるように設計されているので、長期連用しない旨の記載はされることはない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問106】

一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 添付文書には「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。」等の文言が記載されている。
- b 医薬品の添付文書の内容は変わらないものではなく、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、2年に1回、改訂されることとされている。
- c 添付文書は開封時に一度目を通されれば十分というものでなく、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管される必要がある。
- d 使用上の注意は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、適正使用のために重要と考えられる項目が前段に記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問107】

医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a シロップ剤は変質しやすいため、開封後は冷蔵庫内に保管することが望ましい。
- b 医薬品を別の容器に移し替えると、その移し替えた容器が湿っていたり、汚れていた
りした場合、医薬品として適切な品質が保持できなくなるおそれがあり、望ましくない。
- c 眼科用薬は、長期間保管すると変質する可能性があるため、家族間で共用し、できる
限り早期に使い切ることが望ましい。
- d 消毒用アルコール等、危険物に該当する製品は、火気を避けて保管することが望まし
い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

【問108】

次の成分のうち、一般用医薬品にその成分が主として含まれることによって、添付文書等に「次の人は使用(服用)しないこと」として「前立腺肥大による排尿困難の症状のある人」の記載により注意を求めているものはどれか。

- 1 タンニン酸アルブミン
- 2 塩酸プソイドエフェドリン
- 3 インドメタシン
- 4 ウルソデオキシコール酸
- 5 ビサコジル

【問109】

次の成分のうち、一般用医薬品の内服薬にその成分が主として含まれることによって、添付文書等に「服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと」の記載により注意を求めているものはどれか。

- 1 ケトプロフェン
- 2 スクラルファート
- 3 ケイ酸アルミニウム
- 4 サントニン
- 5 塩酸ジフェンヒドラミン

【問110】

次の成分のうち、一般用医薬品にその成分が主として含まれることによって、添付文書等に「相談すること」として「緑内障の診断を受けた人」の記載により注意を求めているものはどれか。

- 1 塩酸パパベリン
- 2 塩化ベルベリン
- 3 ケイ酸アルミン酸マグネシウム
- 4 ポビドンヨード
- 5 イブプロフェン

【問111】

一般用医薬品の製品表示に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 「使用期限」は、適切な保存条件の下で製造後3年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において法的な表示義務はないが、流通管理等の便宜上、外箱等に記載されるのが通常となっている。
- 2 「使用にあたって添付文書をよく読むこと」などと、外箱に記載されるのが通常となっている。
- 3 製品には、薬事法で定められた表示事項以外記載してはならない。
- 4 医薬品は、その添付文書、容器等又は外箱等のいずれかに、「用法、用量その他使用及び取扱い上必要な注意」等が記載されていなければならない。

【問112】

製薬企業等における市販後の医薬品の安全対策に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の市販後においても、常にその品質、有効性及び安全性に関する情報を収集し、医薬関係者に必要な情報を提供することが、企業責任として重要なことである。
- b 副作用・感染症報告制度では、医薬品等との関連が否定できない感染症に関する症例情報の報告や研究論文等について、製薬企業に対して国への報告を義務付けている。
- c スイッチOTCについては、再審査制度が適用される。
- d 副作用症例報告のすべての報告期限は、15日以内である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問113】

薬事法第77条の4の2第2項の規定に基づく医薬品の副作用等報告に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害について、報告する必要がある。
- b 使用上の注意に記載されていない副作用については、報告する必要はない。
- c 報告作成にあたっては、副作用の症状がその医薬品の適応症状と見分けがつきにくい場合があるため、購入者等からの訴えに素直に耳を傾け、真摯な対応をする必要がある。
- d 医薬品との因果関係が明確でない場合は、報告の対象とならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問114】

医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

本制度は、1967年3月より、(a)をモニター施設に指定し、厚生省(当時)が直接副作用報告を受ける(b)制度としてスタートした。また、一般用医薬品による副作用等の情報を収集するため、1978年8月より、モニター(c)で把握した副作用事例等について、定期的に報告が行われるようになった。その後、1997年7月に「医薬品等安全性情報報告制度」として拡充し、2002年7月には、薬事法が改正され、医薬関係者による副作用等の報告は義務化された。2006年6月の薬事法改正により導入された登録販売者に本制度に基づく報告を行う義務は(d)。

	a	b	c	d
1	医療機関	医薬品副作用モニター	薬局	ある
2	医療機関	医薬品副作用モニター	薬局及び薬店	ある
3	医療機関	副作用・感染症報告	薬局	ない
4	製薬企業	医薬品副作用モニター	薬局	ない
5	製薬企業	副作用・感染症報告	薬局及び薬店	ある

【問115】

医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 報告は、ファックス又は郵送に限定されている。
- b 報告書の患者名は、イニシャルを記載する様式となっている。
- c 報告は、厚生労働大臣に行わなければならない。
- d 医薬品による感染症と疑われる症例については、報告する必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問116】

医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を適正に使用したにもかかわらず、副作用によって一定程度以上の健康被害が生じた場合に、医療費等の諸給付を行う。
- b 医薬品を使用して生じた健康被害でも医療機関での治療を要せずに寛解したようなものは、救済給付の対象とならない。
- c 個人輸入により入手した医薬品の適正な使用による健康被害の入院治療は、救済給付の対象となる。
- d 給付請求がなされると、疾病・傷害認定審議会の諮問・答申を経て、厚生労働大臣が判定した結果に基づき各種給付が行われる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問117】

医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 救済給付業務に必要な費用は、事務費を含め、全て製薬企業から年度ごとに納付される拠出金で充てられる。
- b 製薬企業の社会的責任に基づく公的制度として、1980年5月から運営が開始された。
- c 医薬品の副作用であるかどうか判断がつかかねる場合でも、給付請求を行うことは可能である。
- d 給付請求を行えるのは、健康被害を受けた本人のみである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【問118】

一般用医薬品による副作用で、医薬品副作用被害救済制度の給付対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合の相談窓口として最も適切なものは次のどれか。

- 1 医薬品医療機器総合機構
- 2 日本中毒情報センター
- 3 医薬品PLセンター
- 4 医薬品食品衛生研究所
- 5 日本製薬工業協会

【問119】

医薬品の副作用事例に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が、2003年5月までに26例報告されたことから、厚生労働省より関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布が指示された。
- b 塩酸フェニルプロパノールアミン（PPA）含有医薬品は、2000年5月、米国において、女性が食欲抑制剤として使用した場合に、出血性脳卒中の発生リスクとの関連性が高いとの報告がなされ、米国食品医薬品庁（FDA）より、米国内におけるPPA含有医薬品の自主的な販売中止が要請された。
- c 塩酸フェニルプロパノールアミン（PPA）含有医薬品については、用法・用量を守っていたにもかかわらず、脳出血等の副作用症例が複数報告されたため、厚生労働省より関係製薬企業に対して、販売中止が要請された。
- d 小柴胡湯しょうさいこうとうはインターフェロン製剤との併用例による間質性肺炎が報告されたことから、インターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問120】

医薬品の適正使用のための啓発活動に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 国は10月17日から10月23日の一週間を「薬物乱用防止キャンペーン」期間として、各種イベント等を関係機関と共に実施している。
- b 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について、正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的として、「薬と健康の週間」を、毎年6月20日から6月26日の一週間実施している。
- c 登録販売者は、医薬関係者として、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のため、その啓発活動に参加、協力することが期待されている。
- d 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物によるものばかりではなく、一般用医薬品によっても生じ得る。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 正 | 誤 |